

日本農業気象学会 2012 年度第 4 回理事会議事録

日 時：12 月 7 日(金) 13:00～17:50

会 場：東京大学農学部 7 号館 A 棟 7 階会議室（東京都文京区弥生 1-1-1）

出席者：岡田益己、小林和彦、大政謙次、小沢 聖、菅野洋光、富士原和宏、皆巳幸也、
吉本真由美、脇山恭行、荊木康臣、松島 大、横山 仁、佐々木華織、廣田知良
(スカイプ)

欠席者：林真紀夫、町村 尚、杜 明遠、中屋 耕、菅谷 博、黒瀬義孝、青木正敏、
北野雅治、松岡延浩、石郷岡康史

【議事録確認】

1. 2012 年度第 3 回理事会議事録報告（資料 1）（菅野理事）
菅野理事より報告され、承認された。

【報告・連絡事項】

1. 編集委員会報告（資料 1）（松島理事）
編集委員会の状況が報告された。
 1. 会誌の報告
 - 1)・「Journal of Agricultural Meteorology(以下 JAM)」審査中は、19 報（部会特集号原稿も含む）との報告がなされた。
12 月末までに受理があれば、1 号に載せる。
 - 2)部会特集号
7 報の投稿があり、1 報は受理されている
 2. その他の報告事項
 - 1) 審査に関する処理期間短縮案
・採択率が悪く、80%を切っている。
 - ・督促まで 3 ヶ月は長いので、担当編集委員から逐次催促してもらうよう依頼する。
 - 2)「JAM」を「生物と気象」のように連続出版方式にしてはどうかとの意見があったが、投稿数が増えるまで見送るとの報告がなされた。
 - 3) 採択のスピードを早くする必要があるとの意見が出された。
 - 4) 会誌の A4 化について、検討し、審議したいとの提案があった。
 - 5) 次期編集委員の選出についての報告がなされた。
 - 6) JAM に掲載された論文の著者名と日本語タイトルを生物と気象誌に掲載することについて、J-stage では公開できないとの報告がなされた。
 - 7) 生物と気象誌の J-stage3 投稿審査システムの審査結果については不採択となったとの報告がなされた。
 - 8) ISI 登録へ向けて意見交換がなされた。
- 大政副会長から質問・意見が出され、松島理事が返答を行った。
- ・(問) ISI 登録では、定期的発行が条件だったが、小林先生の提案(2)は大丈夫か？
= (答、以下同) 連続出版式に掲載されるオンラインジャーナルで既に登録されているのもあるので問題ではない。

- ・連続した3号分を送るということだが、2年間送り続けたと聞いたこともある。＝まずは、直近3号のみと聞いている。
- ・A4化は読みやすいが、背表紙が薄くなってしまわないか？
- ・投稿論文数について、査読体制、編集委員権限は？＝第66巻1号（2010年3月）に掲載されている「JAM 投稿論文等の審査に関する指針」に依っている。
- ・初めから査読者を3名以上指名して、先に査読意見が返ってきた2名分を用いるというようにすれば査読を早められるのではないか？
- ・査読者がリジェクトしても、編集委員が決めてもいいのではないか？＝現在の体制でも可能。
- ・通常の特集をするときに、ゲストエディター権限に預けるのはどうか？＝部会特集号とかは、部会長がゲストエディターをしている。
- ・意思決定について、編集委員に責任を任せる。
- ・ISAM では、既にゲストエディターを委嘱しているが行われている。ゲストエディターに任せることで、論文が集められるのではないか？＝ISAM に限った編集委員に担当してもらうことで対応している。
- ・大会講演者にレビューを書いてもらう方法は？（もともと北野委員長の提案：松島補足）
- ・レビューを増やすと、インパクトファクターが上がる。

★その他意見など

- ・投稿数が少ないのか、査読が出てくるのが遅いのか？（小林）＝投稿数は必ずしも少なくはなく、査読や著者修正に時間が掛かる場合が多い。
- ・審査が厳しいとの噂もあり、投稿数が減っているのは、他の学会誌へ投稿が流れているのではとの意見も出された。
- ・中国や韓国の評価基準を考慮する。彼らは、ISI 登録されていると業績になるが、日本誌に出しても業績とならないので投稿してこない。（大政）
- ・査読者は厳しいが、編集委員が審査する。編集委員（1名）と査読者（2名）で編集委員が一致する形で行っているのか？（岡田）＝査読者の意見を参考にして編集委員が採択の可否を起案し、編集委員会が最終的に決定する形で行っている。
- ・最終決定権を編集委員に与えてはどうか？（岡田、大政）＝最終決定は編集委員会が行う
- ・明らかな間違いでなければ、通す方向で進めてはどうだろうか？（大政）
- ・リジェクト案が出てきてもすぐに決定しているのではなく、担当委員の意見も聞いて、編集理事と副委員長で協議している。（松島）
- ・ISI 登録に向けて、投稿数を増やす方向で施策を考える必要があるのではないか。（荊木）
- ・厳しすぎると、原稿が集まらない。
- ・編集委員に近いところで、原稿集めていただくのは？（大政）
- ・レビューについてはお礼を出しても書いてもらっては？（大政）

以上、結論として、編集委員会からの意向や審査に関する指針を担当編集委員及び査読者に十分周知し、協力してもらう。

レビューに関することは、審議事項へまわす。

- 9) 生物と気象投稿規程の改正について(編集委員会資料1)(松島理事)
終身会費を払った正会員は、安くないのか?との意見が出され、シルバー会員と限定するのではなく、個人会員で満65歳以上とすることになった。
- 10) 引用文献チェックに関する養賢堂への委託について(編集委員会資料2)(松島理事)
「JAM」、「生物と気象」を対象とし、編集理事がやっていた内容を養賢堂に委託する。

★J-stageの管理について

- ・J-stage 早期公開の欄に、1年前のものが載っていたり、会誌の発行より公開が遅れたり、早期公開を申し込んでも載らなかったこともある。J-stageの掲載がいい加減だと、学会誌としての評判が悪くなる可能性があるため、早期公開のタイミングや期間についての具体的なルールを編集委員会で早急に決定し養賢堂に指示することとした。

2. 2012年度学会賞について(資料3)(小沢理事)

- 菅野理事より代読による報告が成された。
前委員長の引継ができておらず、急遽、委員長を北里大学の皆川先生に依頼し、先週決定したとの報告がされた。
学術賞が1名、論文賞が2名、奨励賞が1名を審査中である。

3. 2012年度永年功労表彰について(資料4)

- 菅野理事より、永年功労賞3名を審査中との報告がされた。
委員会で決定→会長→理事・評議員に投票依頼→公開 となるとの説明が岡田会長よりされた。

4. 2013-2014年度役員選挙結果について(資料5)(吉本理事)

吉本理事より、これまでの経過と今後の予定について報告され、役員選挙報告別紙のとおり、2013-2014年度の全役員及び委員が選出されたことが報告された。また、選挙管理にあたって判明した規程の不具合について問題提起された。

- ・副会長・学会賞審査委員選挙の投票用紙不備による再選挙、会員名簿の不備があり、学会事務局からも謝罪があった。今後このようなミスがないよう厳重に注意する。
- ・岡田会長より、永年功労会員表彰審査委員について、本来の賞の趣旨から既受賞者ではない会員が委員を担当したほうがよく、一方で、若い委員では受賞候補者の功労実績がわからないかもしれないので、長い会員歴のある未受賞者が担当するのがよいのではとの意見が出された。
- ・学会賞審査委員規程の不具合について
 - ①委員の重任についての記述がなく、本選挙では改選される委員への投票を無効として選出者名簿を作成した。
 - ②委員の辞退や欠員に伴う繰上げを行う場合、どの選出者名簿に基づくかや繰上げで就任する委員の任期が、規程上不明であったため、本選挙では欠員となった委員の選出時の名簿に基づいて繰上げを行い、その委員の残り任期を務めるものとした。
 - ③委員長互選の対象について、学会賞の呼称が現在と異なる時期があるため、それを含有する文言に規程を修正する必要がある。

- ・永年功労会員表彰審査委員会規程の不具合について

委員長の互選について、途中交代した場合の委員長の任期についての記述が必要。委員長が途中交代した場合、就任した委員長の任期は退任した委員長の残り任期とし、仮に次の任期にも委員となった場合は委員長を重任しないものとする。

学会賞審査委員規程、永年功労会員表彰審査委員会規程の不具合については、審議事項の会則改定で討議する。

5. 2013年度北陸大会進捗状況（資料6）（皆巳理事）

皆巳理事より、進捗状況が報告された。

- 1) 発表申込のリマインダーを週明けに流す。
- 2) 公開シンポジウム（北陸をアピールする内容）について資料に基づいて説明がなされた。
- 3) 電車の時間にあわせてシャトルバスを運行するとの報告がなされた。
- 4) 企業展示の数は、資料（3件）より増える見込みであるとの報告がなされた。
- 5) その他

★会合の時間帯について

- ・大会スケジュールに編集委員会、評議員会、理事会、総会の時間帯を仮に決めていく（去年は学会賞受賞講演はなかった）のでそれぞれの関係者で決定してほしい。
- ・総会：学会賞受賞講演は15分程度なので、総会は13:00～15:00（2時間）とする。
- ・総会で、大会委員長の挨拶をすることを忘れないこと（11:30～12:30）。
- ・理事会、編集委員会は、案の通りで良い。

★中国・韓国の反応について、小林副会長より報告がなされ、中国 農業気象学会で大学の先生に直接会い、情報交換し後ほどメールでお願いしたが期待できそうにない。

- ・農業気象分科会があった時に話を持っていくようにするが、今回は期待薄。
- ・韓国のキムジュン先生にメールを出しているが返事がない（催促メールにも返信がない）との報告がされた
- ・直接、キムジュン先生と面識がある方に依頼して連絡をしてもらうようにした方が良いのではないかとの意見が出された。
- ・来年、国際園芸関係大会が韓国の済州島（10月）で開催されるので、宣伝に来てもらう形にして、岡田会長より連絡することになった。
韓国の方々には、優先的に来てもらうようにしてはどうかとの意見が出された。
- ・優秀ポスター賞の表彰を行うことを予定しており、審査委員を10名前後で投票してもらい決定する予定であるとの報告がなされた。

6. 論文賞の英語文案について（資料7）（菅谷理事担当）

表彰状の案について、菅野理事より代理報告がなされた。

討議の結果、提出された資料7の2枚目フォーマットを使用し、「Chair of the Society of Agricultural Meteorology of Japan March 28, 2013」は省き、「Journal of Agricultural Meteorology Best Research Paper Award 2013」を「The Best Paper Selection Committee of the Society of Agricultural Meteorology of Japan 2013」とし、「chair of …」を「President of …」とすることが理事会で承認された。

代紙、ロゴ「農業気象」については、菅谷理事が見本を作成し、総務理事に送付、会

長確認後、各理事に送付とすることになった。

論文賞のみ英語にする、学術賞と普及賞は日本語手書きでとし、奨励賞は日本語印刷とする。

7. 日本農学賞候補者

菅野理事より、候補者はなかったとの報告がなされた。

8. 独立行政法人大学評価・学位授与機構の機関別認証評価専門委員の推薦について（資料8）

菅野理事より、次年度の会長、副会長を推薦したとの報告がなされた。

9. 2011-2012 年度永年功労会員表彰審査委員長の選出（資料9）（吉本理事）

2011-2012 年度委員長が 2012 年度の永年功労会員表彰の対象となったため委員を退任し、改めて委員長を互選することとなった。庶務理事の選挙管理により選挙を行い、本條均会員が委員長に選出された。

委員長互選に手間取ることが多いことから、慣例として前委員長に取りまとめをお願いすることとなり、早速庶務理事から現委員長に次期委員長の人選をお願いすることになった。

10. 新公益法人法への対応及び学協会の機能強化のための学術団体調査について（資料10）（横山理事）

アンケート3枚に回答したことを菅野理事代読で報告がなされた。

11. 東日本大震災にかかわる協力学術研究団体の活動の調査（第2回）について（資料11）（横山理事担当）

横山理事が回答したことを菅野理事代読で報告がなされた。

12. 「リモートセンシング・GIS 研究部会」の部会長および幹事の変更について（資料12）

菅野理事より、大政部会長から細井部会長へ変更があったこと、幹事に飯泉会員が追加されたとの報告がなされた。

13. その他

★廣田理事より、北海道支部60周年記念として「北海道の気象と農業」（日本農業気象学会北海道支部）が、北海道新聞の文化事業として出版されたとの報告がなされた。

★横山理事より、（資料13）「平成24年度総合研究試験研究推進会議（農業気象分野）第6回農業気象研究会を後援、アグロ・イノベーション2012」を協賛、「2012年第5回生態工学会定例シンポジウムを協賛、「第22回風工学シンポジウム」を協賛、「第23回SHITAシンポジウム「植物工場の新展開」を協賛したとの報告がなされた。

【審議事項】

1. クレジットカードについて（資料14+別資料）（佐々木理事）

- ・UCカードとは契約を行ったとの報告がなされた。
- ・JCBは、利用率が4.6%と高いのでどうするか審議され、今回は見送ることとなった。
- ・利用料を会員負担にするのか、学会負担にするのかについては、郵便振替や銀行振込でも会員負担となっているため、クレジットカードによる支払希望の場合は、自己負担率を一律5%にすることになった。
- ・養賢堂の手数料として1件につき150円の提示があった。
- ・端末のレンタルについて議論されたが、大会会場での対応が難しいのではないかと予想されるため、今回は使用しないことし、当日は、現金のみの受付とすることになった。
- ・大会参加のキャンセルを考慮して、大会の一か月前までは保留にし、その後に請求する。但し、カード有効期限は、大会終了時までであることが条件とする。カード払い申込書に条件を記載しておくこととなった。
- ・クレジットカード申込書の書式について、大会用のフォーマットは、有効期限条件を記載する。意見がある場合は、会計理事へメールにて連絡することになった。
- ・大会参加費について前納である必要があるのか？の議題に対して、当日は煩雑になってしまうため、大会参加費の支払いは受付ができないとの結論となった。
- ・振替用紙が毎号綴じ込みされているが、各年1つの号のみに入れるのはどうか？との意見が出され、12月（4号）のみに入れることとなった。
- ・2年間未納者はリストを作成。
- ・3年間未納の会員に対しては、メールで「次回理事会で除籍になります」という内容を送ると支払われることが多いという他学会での事例が出され、会計理事からメールを送ることになった。
- ・理事の旅費の請求書（資料フォーマット）について、早めに提出してほしいとの説明がなされた。

2. フェデレーションの覚書について（資料15）

岡田会長より、宇都宮大会の時に覚書の訂正をしたとの説明がなされた。

覚書の2.1の一部が変更され、これをもとに2015年の岩手大学の会員の有志グループが手を上げたとの説明がなされた。

覚書の2.2は、岩手大学有志から提案し、宇都宮大会で決定した。

覚書の2.6の分担金については、支払っていたがほとんどが返金されていたので、負担金に変更され、大きな学会は20万円と変更され、万が一、赤字の場合は、追加負担金を請求するとの説明がなされた。また、覚書に対する付帯事項が追加された。

この内容で、理事会で了承されれば、郵送するとの説明がなされた。

1月26日の会議で覚書が合意されるであろうこと、また、次期幹事学会が決まるだろうとの説明がなされた。

3. 日本農業工学会フェロー推薦の依頼について（資料16）

菅野理事より、日本農業気象学会からは1名のフェローを推薦するとの説明がなされた。吉本理事より、今までの経過が説明され、奥島理事から理事会で推薦の依頼があったと説明がなされた。年齢を基準に順番に推薦する。過去の推薦者を理事会資料ま

たは総会資料で庶務理事がチェックし、会長、副会長に報告することになった。

4. 永年功労会員表彰委員会規定について

会則関係で審議することとした。

5. 名誉会員の推薦について（資料17）

- ・今後の理事会の内規として、会長・顧問経験者で年齢は70歳と提案されたが、「会長・顧問経験者ならびに相応の貢献をされた方」となった。
- ・名誉会員賞のようなものを渡すのか分からないので、高倉名誉会員に確認してみるとの返答があったとの報告がなされた。なお、賞状は、菅谷理事に依頼する。
- ・名誉会員は、総会での承認が必要なため、菅野理事が承認のために書類を作成することとなった。

6. 会則の矛盾点について（資料別紙）

横山理事より、会則の矛盾点について寄せられた内容の報告がされ、修正・訂正案が出された。後日、提案された内容を取りまとめ、メールにて各理事が確認することとなった。

また、ホームページについての規定がなくてよいのかとの提案があった。

7. 支部活動の合併について

岡田会長より、東海支部林理事からのメールが代読された。

- ・他支部との合同活動や、他学会、園芸学会、作物学会と合同で大会を開くのはどうか？1支部と合併するのは県により、難しいのではないかとの内容は報告された。
- ・以前、東北と北海道とを行った。また、関東と東北が合同で大会を行ったとの説明がなされた。本件は、次期に引き継ぎの議題とする。